

## 空とぶ王子③

(1) アテニー王子は怪物を退治したものの、自分も力つきてたおれてしましました。そこへ小人が来て「もしもし、つよい王子さま、しっかりして下さい」

(2) 「エッ、あ…君は…」「私は森の小人です。私が見ていたらあなたは怪物とたたかってやつつけてくれました。おかげで森にすむ一同はやすらかにくらせます。さて…」

(3) 「私といっしょに来て下さい…」と小人がいうので、王子は小人を手にのせていくと「そこのみずうみで体をあらつて下さい…」「そうか、怪物の血でよごれていたなア」

(4) 王子は怪物の血でよごれた体をあらいました。小人は「王子さま、あなたはもう死ぬことはありません。あの怪物の血をあびてこのみずうみであらつたからですよ。「エッ、そうか…ふーん」

(5) 王子と小人が去つたあとで、一人の男がやつてきました。「おや、道がぬるぬるとすべるぞ。これは何かの血がながれているのだ…はてな」

(6) 「あッ、あんなところに少女がたおれている。そしてドラゴンが死んでいる。そうか、ダレかがドラゴンを退治したのだ。よし、オレがあの少女を助けたことにしてやろう」

(7) 「もしもし、気がつきましたか」「あ…あなたは」「私はあの怪物を退治してあなたを助けた旅の騎士、ステパンです。さア、おおくりしましょう」

(8) ブラックバードは高い塔の上からおりてきて「あなたのおうちはドコですか。えッ、お城のお姫さまですって」心のよくないステパンは、お姫さまを助けたと知つてよろこびました。そして城へくると、

(9) 「お父さま、私は姫の命の恩人ですぞ。姫を私のオヨメさんにして、私をこの城のアトツギにして下さい」「エッ、そ、それは…」ずうずうしいコトバにおどろく王さまと姫。果して…のぞみじやな」

(10) 「王さま、私は姫の命の恩人ですぞ。姫を私のオヨメさんにして、私をこの城のアトツギにして下さい」「エッ、そ、それは…」ずうずうしいコトバにおどろく王さまと姫。果して…